留学報告

一関工業高等専門学校
生産工学専攻 1 年　榊原優太
留学先：オーストラリア
留学期間：2019 年 8 月 15 日～2019 年 10 月 31 日

私は 2019 年 8 月 15 日～2019 年 10 月 31 日まで、オーストラリアのメルボルンにある、ロイヤルメルボルン工科大学に留学しました。この留学レポートでは大きく
1.留学内容
2.留学先での生活
3.海外に行って驚いたこと
4.留学した感想
について報告します。

1.留学内容

写真 1　メルボルン工科大学　入口

1.1 なぜオーストラリアに行ったのか

　私は現在一関高専で、居眠り運転を防止する装置を開発する研究を行っています。オーストラリアでも私と似た研究をしている大学があり、実験装置、測定器具などの環境がとても整っています。その装置、測定器具を貸していただけることになり、実験を行うためにオーストラリアに行きました。

1.2 居眠り運転を防止する装置とは・・・

皆さんは高速道路などの一本道を長時間運転して、眠気を感じた経験はありますか？正直僕はあります。そして車を運転していると少なからず振動を感じますよね。この振動が私たちを眠くさせているという研究結果があります。ちなみにそれも今回私が留学した大学で発表された研究結果です。そこで発表されたのは 4-7Hz の振動を一定時間人間に与えられると眠くなるというものです。逆に、ある振動を一定時間与えることで目が覚めるのではないかという研究も同時に行われています。今回は目が覚めるといわれている振動周波数を用いて、手や足に簡単に装着できるような装置を作製しました。ドライビングシミュレータで疑似運転をしてもらい、眠気が増したときに振動を与えました。

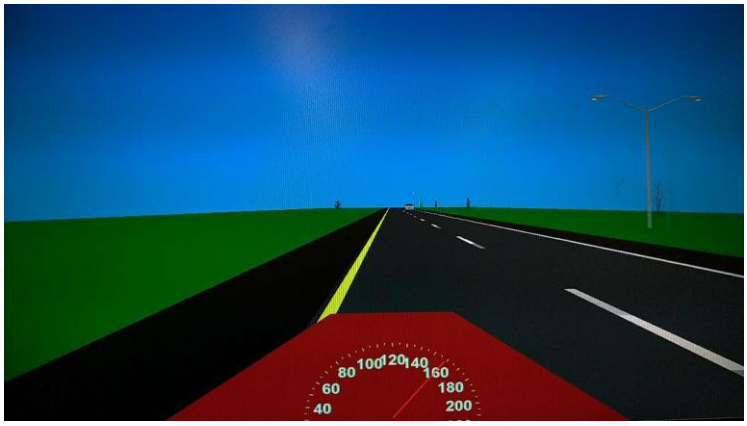

写真 2　左：ドライビングシミュレータの映像　右：ドライビングシミュレータ

1.3 研究結果

実際に被験者に振動を当てて実験を行いました。結果は現在解析中ですが、雲行きが怪しいのが現状です。振動を当てる部位、振動の周波数(1 秒間に何回振動するか)、などを再検討する必要がありそうです。

2.留学先での生活

2.1　1 日のスケジュール

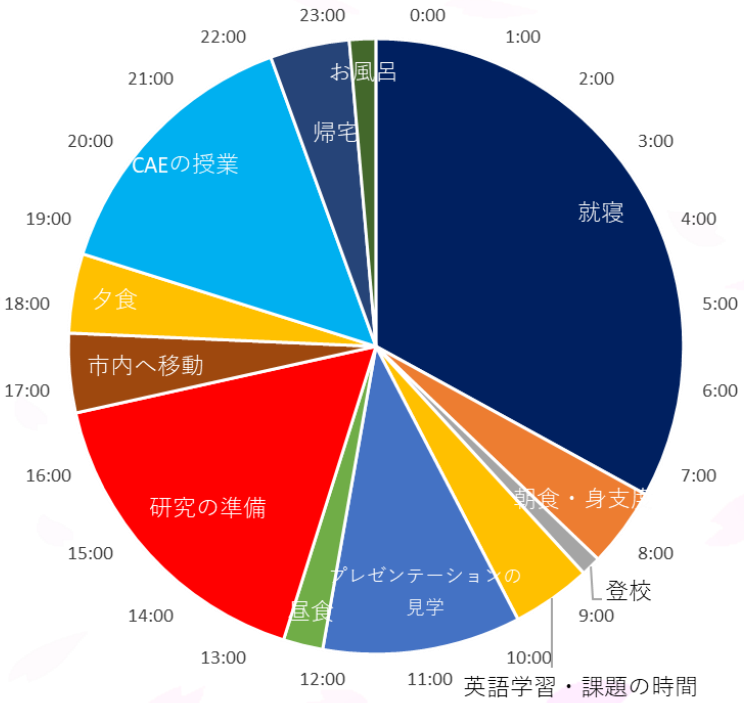

図 1.1 日のスケジュール

留学中の忙しい 1 日のスケジュールです。
この日の午前は研究室の先生が企業の方に自分たちの研究についてプレゼンテーションをしました。
午後からは、自分の実験をするための準備をしました。この日は、振動周波数の調節をしました。
ロイヤルメルボルン工科大学は、東キャンパス、西キャンパス、シティーキャンパスの 3 つのキャンパスがあります。私は町の中心から少し外れにある東キャンパスに所属しました。
18：30～21：30 まで研究室の先生の授業がシティーキャンパスで行われ、私も参加しました。市内へ移動するのに車で 1 時間ほどかかるため、16：30 には移動しました。

2.2 宿泊先について

私は留学中シェアハウスに住みました。シェアハウス自体初めてでしたが、インド人 2 人サウジアラビア人、私の 4 人暮らしで初めて外国人と生活しました。みんな地域の特色が若干出るものの、優しくしてくれました。日本で買ったコアラのマーチをお土産としてあげたら喜んでくれてよかったです。

2.3 食事について

日本で有名なごはんの代表例はすし、ラーメン、てんぷらなどですよね。ではオーストラリアで代表的なごはんを知っていますか？オーストラリアはイギリス系の国であり、イギリスの食文化が発達しなかったため、オーストラリアでもあまり発達していないそうです。

私はオーストラリアでは日本の米を食べることができなかったため、家では食パンをメインの食生活でした。外食では、ハンバーガー、中華料理、イタリアンなどを食べました。フィッシュ＆チップスはイギリスの料理で、オーストラリアのたくさんのレストランのメニューにありました。オーストラリアならではの料理を食べたいと思い、カンガルーのステーキを食べました。現地の人によるとカンガルーは硬く食べにくいからあまり好きではないと答える人が多かったのですが、私が行ったレストランのカンガルーステーキは、焼き具合の影響もあったせいか、かみ砕きやすく、とてもおいしかったです。日本の牛タンに近いものを感じました。

写真 3　カンガルーのステーキ

3.海外に行って驚いたこと

オーストラリアに行って一番驚いたことは

オーストラリア以外の国籍を持った人がとにかく多い！！

ということです。
留学前に調べた情報の中に、移民を積極的に取り入れている国で様々な国の人が住んでいることを知っていましたが、オーストラリアに行ってみて本当にたくさんの国の人がいることに驚愕しました。日本では移民をほとんど取り入れていないため、様々な国の人が一度に見られる光景がとても新鮮でした。実際、
現地で最初にできた友達：中国人
大学の担当教授：イラン人
チューターをしてくれた学生：中国人
シェアハウスの大家さん：ブラジル人
ハウスメート：サウジアラビア人、インド人
大学の近くのレストランの従業員：ネパール人
家のご近所さん：イタリア人
と本当にオーストラリア以外のたくさんの国の人と交流しました。
オーストラリアはオーストラリア独自のアボリジニの文化の他にも、世界を凝縮してできた文化もあるように思えました。日本でよくグローバル化という言葉をよく聞きますが、これも１つのグローバル化だと思いました。

4.感想

　留学ではとにかく日本でやったことがないことをしてみたいと思っていました。3 ヶ月ほど留学するのが初めてでしたし、海外で実験をしたり、世界遺産に行ったりしました。今までやったことがないことをやるときには不安な部分もありましたが、実際やってみたら、新しい世界が広がっていて、自分の視野も広がったように思い、結果やってよかったです。そして、私に自信を与えてくれました。英語に関しても聞き取れないこともたくさんありましたが、間違ったからってなにも問題なくて、分からなかったら聞き返せば良いと現地の人が教えてくれました。現地の人たちとの出会いはとても大きいです。さまざまなバックグラウンドを持った人との出会いは、自分の考え方や物事の捉え方を変えてくれました。そしてこれからは留学でした経験を今後に生かせるように頑張ります。私の留学を支えてくださったみなさん本当にありがとうございました。

Corona
Extra